



2005. 10. 21

17年度国際キワニス日本地区事業報告（H16. 8. 1～H17. 9. 30）

17年度の活動方針を定めるにあたって、1) 新規約に基づく活動、2) 全クラブが取り組める活動、3) 広報活動の強化、4) 奉仕と親睦の更なる推進、5) 国際キワニス2004-05決議「IDEA」とのリンクと5つの基本的な考え方を導入したが、概ねその目的は達成された。具体的な活動方針に対する実施状況を項目別に報告する。

1) 新役員会、委員会、総会のスムーズな立ち上げと運営

① 役員会

H16. 10、H17. 5、H17. 9と3回実施した。また、役員数は33人から13人に減じたが、地区内のコミュニケーションを円滑に進めるため、役員会には各クラブ会長も、オブザーバーとして出席していただいている。

② 委員会

常任委員会が8つ、特別委員会が3つできたが、委員会は原則3名で構成することにして運営している。委員長の任命が遅れたため、一部を除いて委員会の活動は不活発であった。その中でYCPO委員会の活動は活発に行われ、地区として取り組むべきテーマとして、「児童虐待」の検討がなされた。

③ 総会

代議員制になって初めての大会が仙台大会となったが、これからもできるだけ会員全員が参加できる大会として工夫して行きたい。

2) 会員増強とクラブ新設

① 会員の増強

1500人体制を復活すべく努力したが、設立が古いクラブは退会・物故の会員数が新入会員を上回ることもあり、今年度も目標を下回った。ただ、新入会員増強のため、入会金を下げるなどして、キャンペーンを行っているクラブもあり、効果を上げている。また新入会員のオリエンテーションを実施して、退会者や例会出席者の減少を食い止める努力をしているクラブもある。

② クラブ新設

福島と松江をターゲットに、仙台クラブと神戸クラブが数年にわたって進めており、誕生にもう一步のところまできているが、期中には成功しなかった。引き続

き 18 年度には実現するよう関係者一丸となって努力したい。

3) 日本地区奉仕活動の推進

- ① キワニスドールの普及については、製作目標、納入目標 2000 個に対し、それぞれ 9 / 末現在で 3, 400 個、2, 821 個となっており目標を達成した。今期の特徴は、何と言っても活発な広報活動であり、特筆すべきはBS朝日放送の1時間番組放映である。この番組制作に当たっては、国際キワニス専務理事エデュー・シガードソン氏、ノーデン地区次期ガバナー アーランド・サンデ氏、元国際キワニス会長のブライアン、ミキ・キューナットご夫妻そしてこのキワニスドール・プロジェクトを最初に始めたオーストラリアのナナワディングクラブのジョン・ファイフ氏のご協力に深く感謝する。

また、これを元に 20 分の、PR 用ビデオの製作も完了したので、これからキワニスドールの普及とともに、クラブ新設や新入会員獲得の PR にも役立たせたい。

- ② スウィートウォータープロジェクトの参画
神戸クラブと西宮クラブが進めていたこのプロジェクトに日本地区としても参画し、2004 年 12 月に病院用の上水設備資金として 5000 ドルを、20 クラブのご賛同をえて支援した。
- ③ Adopt-a-School プロジェクト
小堀ガバナー時代の約束のとおり、昨年に引き続き今年度は、フィリピン、ルソン地区のアンティポロ市 J. S. カバルス小学校に、図書室を寄贈した。なおこのプロジェクトはあと 2 年続けられる。
- ④ 日本独自の幼児奉仕プロジェクトの発掘
日本地区 YCPO 委員会で、木全委員長を中心に検討され、児童虐待問題に取り組むことが発表された。

4) 国際キワニス財団 (K I F) への協力

- ① ヨード欠乏症撲滅運動 (IDD)
2004. 7 月以降の追加目標 20, 000 ドルに対して、2005. 9 月末現在で、57, 900 ドルと目標を大幅に達成した。
第 1 期、第 2 期合計すると 1, 171, 982. 40 ドルとなり、会員一人当たりの寄付額は世界 1 位である。
- ② 年次募金活動 (アニュアル・クラブ・ギフト・キャンペーン)
会員一人当たり 2000 円を目途に集め、2005 年 6 月 29 日に K I F に 20, 000 ドルを送金した。
- ③ スマトラ沖地震の募金活動
小田ガバナーから K I F に事前連絡の上、日本地区としては日本ユニセフを通じて寄付することの了解を得て実施したが、目標 4, 690, 000 円に対して、21 のクラブの多数の会員から協力を得て、7 月に 5, 304, 720 円をユニ

セフに送金し、K I Fに送金金額を報告した。

④ 新潟中越地震募金活動

K I Fへの協力ではないが、大きな被害を蒙った山古志村（現長岡市）の子どもたちへの義捐金として、20のクラブから集めた1,533,000円を新潟クラブ佐藤会長から直接渡していただいた。なお、大阪クラブは同じく大きな水害の被害を出した豊岡市に、これに代えて義捐金を拠出した。

⑤ ハリケーンカトリーナ災害の募金活動

ハリケーンカトリーナ災害義捐金として、19のクラブから集めた1,991,700円をK I Fに送金した。なお、10月1日にK I Fスタン・ストーレイ会長より、被災の「子どもの救援限定」を解除してほしいと要請があり承諾した。

5) 国際会議への積極的参加と地区年次総会の成功

① A S P A Cメルボルン大会

出席目標20名に対し、6つのクラブから38名が出席した。

② 国際年次総会ハワイ大会

出席目標30名に対し、7つのクラブから47名が出席した。

③ 日本地区年次総会

神戸大会は425名が出席し、仙台大会では356名が出席した。両大会とも本会議エクスカッションともども盛況であった。

6) 顕彰

① ロバート・P・コネリー英雄賞

日本地区からの提出案件は、2005.10のK I F理事会で検討される予定。したがって17年度の受賞者はいない。

② キワニス文化賞

第41回文化賞受賞者は、正藍冷染で宮城県栗原市の千葉よしのさんに決定した。

③ 業績賞

・新潟地震、スマトラ沖地震津波、アニュアルギフトキャンペーンへの寄付

東京クラブ、名古屋クラブ、神戸クラブ、高松クラブ、京都クラブ

・スイートウォータープロジェクト、ワールドリンクプログラムへの協力

東京クラブ、名古屋クラブ、広島クラブ、神戸クラブ、仙台クラブ、札幌クラブ、横浜クラブ、高松クラブ、福岡クラブ、京都クラブ、千葉クラブ、和歌山クラブ、新潟クラブ、西宮クラブ、

・キワニスドールの納入数

東京クラブ、広島クラブ、横浜クラブ、京都クラブ、埼玉クラブ、西宮クラブ

・出席率 60%以上 神戸クラブ、泉州クラブ、埼玉クラブ、西宮クラブ、静岡クラブ

改善5%以上 東京クラブ、高松クラブ、京都クラブ

- ・ASPAC と国際年次総会出席 東京クラブ、大阪クラブ、仙台クラブ
- ・日本地区年次総会出席 東京クラブ、名古屋クラブ、大阪クラブ、広島クラブ
神戸クラブ、仙台クラブ、札幌クラブ、横浜クラブ、高松クラブ、
福岡クラブ、京都クラブ、千葉クラブ、和歌山クラブ、新潟クラブ、
泉州クラブ、埼玉クラブ、西宮クラブ、福山クラブ、熊本クラブ
- ・ガバナー特別賞 東京クラブ（全部門達成）、横浜クラブ（マタニティコンサート）、高松クラブ（少年ボランティア発表会）、新潟クラブ（スマトラ沖地震津波義捐金）

④ 個人表彰 新入会員を2名以上紹介 11クラブ 19名

7) 全クラブに奉仕する日本地区事務局への変身

ホームページの立ち上げと事務局員の研修会を実施した。また、国際キワニスの規約（改正を含む）や情報、そして各クラブから事務局に集められたデータは、できるだけタイムリーに全クラブに発信した。

なお、当初計画した会員管理システムは、独自に開発しているクラブや、費用対効果に問題が残るクラブもあり、当分の間様子を見ることとした。

8) ワールド・リンク・プログラム（ケース・バンクリフ国際キワニス会長の提唱）

ASPAC地域内の非地区キワニス国およびキワニスクラブ未設置の国に対して、クラブ新設にかかる費用350ドルを負担することを、小田ガバナーから提唱され、日本地区としては20口の目標を出したが、16クラブから18口の資金提供が申し出られ、既にKIに6,300ドルを送金した。

以上